

## 「北極圏旅行記 2017 夏 (8)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋  
～7/28 アルビズヤウスへ～



スウェーデンやフィンランド、それにノルウェーでは、郵便受けがこのようにエリアごとにまとまっている。これが個性があって面白い。全部同じ郵便受けの場所があれば、このように、家ごとにバラバラのところもある。スウェーデンでは、郵便制度は完全に民営化され、郵便局はない。再配達などのきめ細かいサービスもないようだ。



いよいよ友人ご夫妻ともお別れである。忙しい中、日本からの旅行者をあたたかく迎えて、もてなしてくれた。「また来たい」と思う一瞬だった。



ここからは国道 95 号線を、ひたすらノルウェー国境に向かって進むことになる。単調な道だが、景色はすばらしい。「常に尾瀬の中を走っている」と思えばだいたい正しいように思う。渋滞が絶対がないのも有難い。



アリビズヤウルに着いた。国道、航空路、鉄道のいずれも、一度は寄ったことのある街だ。まずはなつかしい駅に行ってみた。残念ながら列車はいなかった。



これはアルビズヤウルの駅前の風景。これだけ見ても、実にリゾート地っぽい雰囲気だが、ここはスウェーデン中北部の普通のいなか街である。





駅前、サーミの民芸品の専門店があるので、今回もちょっと立ち寄ってみた。ヴィルヘルミーナでは、何も買わずに後悔したので、ここではドーンと買おうと思っていた。幸い前回の旅行のあまりのスウェーデンクローネの現金がたくさんある。



どれも美しく、手触りも良く、目移りしてしまいました。コーサ（白樺材のコップ）、食器類、鍋敷きなど、どれもセンスが良く、サーミの伝統を感じるものばかりだ。結局ちゃんと選べず、トナカイ肉のサラミ（試食したらおいしかった）とユトロン（野生のイチゴ）の紅茶をたくさん買って、おみやげにしようと思った。

さて、いざ会計・・・と財布を開いたら、「ダメダメ、その紙幣は使えません」と言われてしまった。どうやら、私は聖徳太子か伊藤博文級の古い紙幣を持っていたらしい。日本では、相当に古い紙幣（たとえば、百円紙幣）も、現行貨幣として通用するが、スウェーデンでは、新しい紙幣が出ると、あっという間に使えなくなるらしい。新しい紙幣への両替の方法を聞いておけばよかった。もちろんカード払いが可能なので、助かった。



「アルビズヤウル」の「ヤウル」は湖という意味で、湖の名称がそのまま街の名称になっている。スウェーデン北部ではこの例が非常に多い。しかし、私はその当の「アルビズ湖」をまだ見たことがなかったので、見ておきたいと思った。



美しい湖だった。水辺が好きな日本人なら、たちまち大観光地になっているだろうが、ここには人が一人もいなかった。私は小型船舶の免許を持っているので、次回はモーターボートを借りたいと思った。

